

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会



平成 20 年度担当者会の開催報告

12月4日、広島県尾道市において、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成20年度担当者会を開催しました。当日は62名が参加し、平成20年度の活動報告や来年度の総会提案に向けた活動の方針について議論を行いました。

開会



担当者会は、協議会の幹事長である田尾和敏呉市産業部港湾振興課長から有意義な総会が開催できたことの報告と今回の担当者会で率直な意見により中身の濃い議論をしていただきたい旨の開会挨拶で始まりました。次に、開催市を代表して平谷祐宏尾道市長から「下関と尾道に「ぶちうまい」という同じ意味を持つ言葉があるように、歴史的に瀬戸内海を通じて様々なものが伝搬されてきた。今回の担当者会では、こうした歴史的なつながり

りを認識し協議会の活動を更に推進するために実りある議論を行ってほしい。」との挨拶をいただきました。続いて、開催地の整備局を代表し東山茂中国地方整備局港湾空港部長から日頃の活動に対する御礼と事務局作成のアクションプランの案に対して意見いただきたいこと、また、本日互いの情報交換を通じて、今後の活動に役立てていただきたい旨の挨拶を行いました。その後、事務局から今後の活動を議論する上で必要となるアクションプランの事務局案を提示するとともに経費削減にむけた会計の検討状況などについて説明を行いました。



平谷祐宏尾道市長

分科会と全体会

第1部の分科会は、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会の各実行委員会に分かれて議論を行いました。第2部の全体会では、各実行委員会で議論した内容などが報告されました。

各実行委員会からの報告など主な議論の内容は以下の通りです。

○魅力検討委員会

クルーズの社会実験等に関する報告及び来年度も引き続きクルーズに関する活動を重点的に行う方針が報告されました。具体的には、クルーズ寄港地からのオプションルツアーとして「瀬戸内海の島々を巡るチャーターミニクルーズ」の実現に向け



た社会実験等が挙げられました。また、活動の課題として、会員の予算編成時期が協議会の活動方針決定時期と一致していないため、活動への参加に支障となっており、今後、協議会活動に参加しやすい総会等のあり方を検討することとしました。

○環境事業委員会



「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断」の報告があり、来年度もこの二つの事業を柱として取り組むこととし、「リフレッシュ瀬戸内」については来年度も8月31日までの1ヶ月を延長するとともに、参加者の増加を図る目的として学校等に呼びかけを行い、協力連携を図っていく。また、「海の健康診断」では経年データを環境学習等に利用しやすいよう整理し、HPに掲載することが報告されました。

○情報発信委員会

今年度の活動として、会員の積極的な利用を図るためにHPの利用に関するマニュアルの作成などが取り上げられ、来年度は、より利用しやすいHPとするため、既存のレイアウトを変更し、掲載内容のメリハリやリンクの活用方法を工夫していくことが報告されました。



その後、下関におけるクルーズ船歓迎イベント等先導的活動について実施会員から報告が行われました。続いて、機関紙「海の路」について、総会特集号の印刷を取りやめ、HPでの報告に代えることで経費削減を図っていくことが報告されました。最後に、19年度総会で決議した協議会活動指針の広域地方計画への反映状況及び今後のスケジュール等について事務局から報告を行いました。

分科会、全体会を通して、担当者から活発な意見・質問が発言され、終了予定時間を超過してしまいましたが大変有意義な担当者会となりました。

現地視察

翌5日は、生憎の雨となりましたが、尾道港におけるみなとまちづくりの取組や、みなとオアシス瀬戸田においてNPO法人「せとだ港房」長澤代表より、みなとオアシスを中心とした港の賑わい創出の取組状況などのお話をいただいた後、瀬戸田港周辺の視察を行いました。

